

地方独立行政法人大阪市博物館機構
令和 事業年度にかかる業務の実績に関する報告書 (案)

目次

1. 地方独立行政法人大阪市博物館機構の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則第9条で定める項目別業務実績及び自己評価等

大項目 I-①

I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項①

1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

- (1) 活動の基盤をなす人材及び資料等の充実並びに施設及び設備の整備
- (2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信
- (3) 戦略的広報の展開

「大項目 I-①-1-(1)」にかかる

記載例は、次頁以降（1頁～9頁）のとおり

大項目 I-②

I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項②

2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

- (1) ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備
- (2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携
- (3) 民間企業等との協働等

大項目 I-③

I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項③

3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

- (1) こども及び教員等への支援
- (2) 幅広い利用者への支援
- (3) 参画機会の提供

大項目 I-④

I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項④

4 大阪中之島美術館の開館に向けて

大項目 II

II 業務運営の改善及び効率化に関する事項

- 1 人材の活用と育成
- 2 評価制度の活用
- 3 ICTの導入及び活用・民間活力の導入

大項目Ⅲ

Ⅲ 財務内容の改善に関する事項

- 1 収入の確保
- 2 経費の縮減

大項目Ⅳ

Ⅳ その他業務運営に関する重要事項

- 1 内部統制の強化
 - (1) 環境整備
 - (2) 重要なリスク回避のための体制の構築
- 2 利用者等の安全確保
- 3 環境保全の取組み
- 4 情報公開の推進
2. 予算、収支計画及び資金計画
3. 短期借入金の限度額
4. 出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画
5. 前記の財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画
6. 余剰金の使途
7. 地方独立行政法人大阪市博物館機構の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則第6条で定める事項

	<p>市立自然史博物館資料収集方針」に基づき、社会共有の財産である自然史標本を適切に収集し、次世代へ継承するために受け入れ、保存管理する。 【参考：平成29年度実績】 総資料数は1,719,202点(昨年度末比35,075点の増加)</p> <p>イ 収蔵庫など館内の配置を見直し、収蔵余力の確保に務める。今年度は旧第二収蔵庫の改修に合わせ、移動式物品棚導入整備を求めている</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 芸術的あるいは資料的価値の高い作品の購入および寄贈の受け入れを継続的に行う。 【参考：平成29年度実績】 寄贈作品267件290点(評価額60,898,000円) イ 美術館活動に有効な資料の寄託確保につとめる</p> <p>(大阪市立科学館) ア 物理・化学・天文・科学史・気象・科学技術を中心とした新規資料を収集し、科学分野における「現象」そのものを展示化するための装置開発・調査研究を行う イ 実物資料として大学等との連携を通じて観測機器類・実験装置類の収集を行う 【参考：平成29年度実績】 寄贈・寄託 15件 購入・製作12件 借用13件</p> <p>(大阪歴史博物館) ア 歴史・考古・美術・民俗・芸能・建築の諸分野において、購入および寄贈の受け入れを継続的に行う 【参考：平成29年度実績】 寄贈4,719点 イ 博物館活動に有効な資料の寄託の確保に努める</p>		
<p>2 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承 博物館等資料について、収蔵庫等において適正な温度・湿度等の下、防災や防犯にも備えた環境で適切に保管し、将来へ継承する。</p>	<p>(大阪市立美術館) ア 館内での総合的虫菌害の管理(I P M)及び収蔵庫の燻蒸を行う。 イ 収蔵庫及び展示室での温湿度管理を継続的に行う。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検する。 エ 新規受入資料の登録を継続的に行う。</p> <p>(大阪市立自然史博物館) ア 収蔵庫内での虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。 イ 入室記録、貸出管理簿による適切な資料の管理を行う。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検し、訓練を実施する。 エ 収蔵庫内の棚転倒防止対策を順次実施する。 オ 西日本自然史系博物館ネットワークなどとの連携による災害対策の検討をすすめる。</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 収蔵庫・展示室の虫菌害の監視および温湿度管</p>	2	

	<p>理を継続的に行う。</p> <p>イ 館蔵品の所在確認を計画的に行う。</p> <p>ウ 防犯・防災システムを定期的に点検する。</p> <p>エ 新規受入作品の登録を継続的に行う。</p> <p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 常設稼働展示品を保守管理して、故障、運用停止を可能な限り少なくするよう努める。</p> <p>イ 特に重要な資料に関しては、機械警備などによる盗難、破損防止を行う。</p> <p>ウ 所蔵資料の出し入れを記録する。</p> <p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 収蔵庫内での虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。</p> <p>イ 出納簿によって収蔵庫からの資料の出し入れを記録する。</p> <p>ウ 防犯・防災システムを適切に運用する。</p> <p>エ 新規受入資料の登録を継続的に行う。</p>		
<p>3 博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供</p> <p>博物館等資料に関する図書、文献、調査資料その他必要な資料(以下「図書等」という。)を収集するとともに、博物館等資料及び図書等に関するデータベース等の作成と公開を行う。</p>	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 継続的に館蔵品及び寄託品のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める。</p> <p>イ 調査研究に資するため、継続的に研究図書・雑誌・展覧会図録等の資料の収集を行う。</p> <p>【参考：平成29年度】</p> <p>図書・雑誌購入145点</p> <p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 継続的な資料の登録・整理をすすめ、収蔵資料目録を発行する。</p> <p>【参考：平成31年度は鳴橋コレクションバラ科植物目録を予定、平成30年度は「岐阜県熊石洞産脊椎動物化石目録」、平成29年「北島浅子氏収集 種子植物 種子・芽生え標本目録」を発行】</p> <p>イ 標本資料だけでなく、自然科学関連の画像・映像資料・絵画資料の収集と整理をすすめる。</p> <p>ウ 継続的に市民の学習に資する図書、及び研究資料となる図書の収集を行う。</p> <p>【参考：平成29年度実績】</p> <p>登単行本総計は20,158部(2,196部追加)</p> <p>交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物累計196,746冊(4,411冊増)</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 継続的に館蔵品の撮影し、データベース化するとともに、オープンデータ化を進める。</p> <p>【参考：平成29年度実績】</p> <p>館蔵資料デジタル撮影 作品31点</p> <p>イ 継続的に研究図書などの収集を行う。</p> <p>【参考：平成29年度実績】 購入図書 173点</p> <p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 現在提供している画像資料を引き続き有償提供する。</p>	<p>3</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・古代人の宇宙観(6点) ・学天則(3点) ・江戸時代の天文書(6点) ・西洋の古書(3点) <p>イ 継続的に図書、研究図書の収集を行う 【平成29年度実績：41点】</p> <p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 継続的に館蔵資料のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める。 【参考：平成29年度実績】 館蔵資料撮影 104カット、 マイクロフィルム撮影 443カット、 デジタル撮影 2,499カット</p> <p>イ 「なにわ歴史塾」で市民の閲覧に供し、また調査研究に資するため、継続的に図書の収集を行う 【参考：平成29年度実績】図書 9,773点</p>		
<p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】</p> <p>4 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成</p> <p>法人の活動を支える専門人材を安定的に確保するため、条件を整備するとともに、成果に対する適正な評価を実施する。</p> <p>館蔵品保存管理、広報、教育、資金調達等に特化した専門人材の安定的確保と充実をめざす。</p>	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 職員のスキルアップをはかるため、研修情報等の収集に努める。</p> <p>イ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担等を模索する。</p> <p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 退職などに伴う欠員を速やかに補充する。</p> <p>イ スキルアップのため、館内に博物館学関連催事を誘致する。 【参考：2019年9月にICOM-NATHIST オフサイトミーティングを予定】</p> <p>ウ 外部研究者とのネットワークづくりや研究能力の向上を目的とした、館内外で開催される学会参加など専門的研修への参加を進める。 【平成30年度は日本地質学会、第四紀学会、生態学会、昆虫学会、鳥学会などに参加】</p> <p>エ 総務課職員、案内要員を含めた、館の活動への理解を深めるための研修を実施する。</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 専門的な人材の採用・育成と職務の役割を進め、国際的専門美術館としての体制の充実を図る。</p> <p>イ 学芸員のスキルアップをはかるため、国内外での研修参加を推進する。</p> <p>ウ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担、職制などを模索する。</p> <p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 各種学会・研究会、講習等に随時参加し、専門性の向上と広範囲の情報の収集に努め、資質向上を図る。</p> <p>イ 国内・海外の施設との人材交流や短期～長期の留学を検討・実施する。</p>	4	

	<p>ウ プラネタリウム、サイエンスショーの制作時と制作後の組織内評価を行い、常設展示の改良評価を通じて、学芸員の資質向上を図る。</p> <p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 若手学芸員のスキルアップをはかるため、研修情報などの収集に努める。</p> <p>イ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担などを模索する。</p> <p>(事務局)</p> <p>ア 教育普及や広報など多様な分野の専門職員のあり方や育成法について検討を行う。</p>			
<p>5 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究</p> <p>博物館等資料に関する専門的見地からの調査・研究を実施する。</p> <p>博物館等資料の展示をはじめとする公開・活用に関する調査・研究・開発を実施する。</p> <p>博物館等資料の保存や修復に関する調査・研究を実施する。</p>	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 館藏品に関する基礎研究を継続的に進める。</p> <p>イ 資料保存、展示手法について、最新の情報の収集に努める。</p> <p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 館蔵資料を活用した研究、および野外での現況や生態に関する基礎研究を継続的に進める。 【参考：学芸員により毎年200本を超える執筆、学会発表などが行われている。詳細は館報参照】</p> <p>イ 西日本自然史系博物館ネットワークや関連学会などと連携して資料の保存科学的研究会、展示手法に関する研究会に参加または誘致開催する。</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 館藏品に関する調査研究を継続的に進める。</p> <p>イ 保存、展示手法、運営等に関する調査研究を進め、最新の情報の収集につとめる。</p> <p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 館蔵資料に関する基礎研究を継続的に進める。</p> <p>イ 資料保存、展示手法に関する研修に参加するなど、最新の情報の収集につとめる。</p> <p>ウ サイエンスガイドリーダーから展示物等について意見徴収し、展示物等についての改善・改修のための調査研究を行う。</p> <p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 館蔵資料に関する基礎研究を継続的に進める。</p> <p>イ 資料保存、展示手法について、最新の情報の収集に努める。</p> <p>(事務局)</p> <p>ア 博物館の利用者等に関する調査・分析等を継続的に実施する。</p>	5		
<p>6 博物館等の運営に関する調査研究及び評価等他館の事例研究など、博物館運営に関する調査・研究を実施する。</p> <p>国内外からの来館者や各種活動への参加者の二一</p>	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 効果的な広報戦略を策定するため、来館者を対象とした各種アンケートを実施し、他館の結果も</p>			

<p>ズを把握するため、必要な調査(マーケティング)やデータ分析を行う。</p>	<p>参照して分析を行う。</p> <p>(大阪市立自然史博物館) ア 自主企画展の開催時には実施目的を明確にし、その目的・計画に基づいて組織内評価を行い、効果を検証する。 【参考：平成30年は「きのこ！キノコ！木の子！」展に関する自己評価を実施、文化政策学会にて発表】</p> <p>イ ミュージアムショップや普及行事についても適宜、アンケート調査や外部有識者によるピアレビューの実施によって効果検証などについて手法開発を試みる。</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 入館者に対するアンケート調査を展覧会ごとに実施し、入館者のニーズを把握して事業に反映するとともに、効果的な情報提供、広報活動等に活かす。 イ 館内にご意見ノートを設置して、来館者の生の声を運営に活かす</p> <p>(大阪市立科学館) ア 入館者の満足度等を調査、分析、評価し、館の運営、事業内容の改善を行うなど、住民のニーズを把握し、それに応える魅力ある事業を行う。</p> <p>(大阪歴史博物館) ア 効果的な広報戦略を策定するため、来館者を対象とした各種アンケートを実施し、他館の結果も参照して分析を行う。</p> <p>(事務局) ア 博物館の評価についての情報収集に努めるとともに、機構における評価法を構築する。</p>			
<p>7 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復 博物館等資料の保存・継承と、展示等による効果的な活用を図るため、必要な修復を進める。</p>	<p>(大阪市立美術館) ア 館蔵資料の中から、資料の状態を勘案して優先順位を設け、修復を行う。</p> <p>(大阪市立自然史博物館) ア 展示資料を中心に必要に応じた修復を行う。 【参考：平成30年度は第5展示室の視聴覚機器を中心に修理】</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵資料の中から、資料の状態や活用予定などを勘案して優先順位を設け、館蔵品の修復を行う 【参考：平成29年度実績】 5件5点</p> <p>(大阪市立科学館) ア 科学に関する展示は、情報の更新や老朽化などが起こるため、計画的な展示の改修・改装を実施する。</p> <p>(大阪歴史博物館) ア 館蔵資料の中から、資料の状態を勘案して優先順位を設け、館蔵品の修復を行う。</p>	7		

	【参考：平成29年度実績】 3件95点		
8 各館の施設の計画的な整備及び改修 博物館施設としての機能と利用者サービスの向上を目指し、次の改修等を計画的に実施する。		8	
(大阪市立美術館) 館の機能強化やサービス・魅力向上を目指し、教育普及活動の場の確保も念頭に、本館の大規模改修計画を策定して、2021年度からの実施を目指す。	(大阪市立美術館) ア 館の機能強化やサービス・魅力向上を目的とした本館の大規模改修計画を策定し、2022年度からの着工を目指す。		
(大阪市立自然史博物館) 今後50年を見据え、収蔵体制や常設展示をより魅力的な情報提供の場とするため、将来の展示改装に向けた構想づくりに着手する。 常設展示場内の展示端末およびその運用システムの更新を検討する。	(大阪市立自然史博物館) ア 全面的な環境改善を必要とする旧第二収蔵庫を改修し、合わせて移動式物品棚の整備を求めている。(再掲) イ 中央監視盤・空調機器・防水工事などの計画的整備・改修をすすめる。 ウ 研究機器などの継続的更新をすすめる。 エ 将来的な展示更新のための調査をすすめる。		
(大阪市立東洋陶磁美術館) 館の機能強化のため、本館エントランスを中心とした大規模な改修計画を策定し、2020年から実施を目指す。	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 2020年度からの本館エントランスを中心とした大規模改修計画の設計作業を実施する。 イ 老朽化した展示ケースはじめ展示室の改修などを検討する。 ウ LED照明など展示機器の更新を検討する。		
(大阪市立科学館) 展示情報を更新し老朽化を回避するため、計画的な改修・改装を実施する。	(大阪市立科学館) ア 第4次展示改装2期目の基本調査を実施する。 イ 常設展示品・展示場の老朽化、安全対策の検討を行う。 ウ プラネタリウム及び全天周映像システムの更新計画を作成する。		
(大阪歴史博物館) 常設展示場の見直しを行い、老朽化した展示ケースや備品類の新調、展示機器の更新などを実施する常設展示場内の展示端末およびその運用システムの更新を検討する。 増加する海外からの来館者に対応するための施設整備に努める。	(大阪歴史博物館) ア 老朽化した展示ケースや備品類の新調、展示端末などの展示機器の状況を把握し、適宜対応を行うとともに、更新計画の策定も行う。		
9 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得 科学研究費補助金をはじめ助成金等の獲得に努める。 科学研究費補助金の新たな館での研究機関指定を目指す。	(大阪市立美術館) ア 科学研究費補助金等の外部資金の獲得を目指す	9	
	(大阪市立自然史博物館) ア 科学研究費補助金を活用した現在継続中の研究課題を継続的に実施する。また研究活性化のために当面取り組むべき研究課題について新規の応募を科学研究費補助金及び民間研究助成金に対して行う。 イ 自然史・レガシー事業などを通じた館外との連携事業を実施する。 ウ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動		

	<p>支援事業」に各館とともに応募する。</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 科学研究費補助金を獲得するため、学芸員が新規申請を行う。 【参考：平成29年度実績】 新規申請2件(うち獲得1件)、継続2件 イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募を行う。</p> <p>(大阪市立科学館) ア 科学研究費補助金を獲得するため、学芸員が新規応募を行う(今年度、機関指定内に入った場合)。 イ 文化庁補助金「地域と共同した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募を行う。 ウ 各種助成団体への応募を行う。</p> <p>(大阪歴史博物館) ア 科学研究費補助金を獲得するため、学芸員が新規応募する。 イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募する。</p> <p>(事務局) ア 科学研究費補助金を活用した研究課題7件を継続的に実施し、また新規の応募を行って研究資金の獲得に努める。 イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」を活用した事業を実施し、また次年度の応募を行って補助金獲得に努める。</p>		
<p>10 バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した計画的な整備及び改修 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を推進する。 さまざまな利用者を念頭に、ユニバーサルデザイン化を推進する。</p>	<p>(大阪市立美術館) ア 館の機能強化やサービス・魅力向上を目的とした本館の大規模改修計画を策定し、2022年度からの着工を目指す(再掲)。 イ 来館者状況を注視しつつ施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の見直しを進める。</p> <p>(大阪市立自然史博物館) ア 障がい者の観覧や行事参加を補助するための支援策策定に向けプログラム検討や教育ニーズなどの情報を収集する。 イ 受付カウンターなどでのタブレット端末を利用した翻訳や説明の支援を検討しすすめる。 ウ 高齢者の参加ニーズなどに関する検討をすすめる。 エ 照明のLED化の推進による照明環境の向上につとめる。</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する。 イ トイレの改修、授乳室設置など来館者ニーズを踏まえた環境整備の検討を進める。 ウ 増加する海外からの来館者を踏まえ、施設案内</p>	<p>10</p>	

	<p>等(非常時の案内を含む)の多言語化の検討を進める。</p> <p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の検討を進める</p> <p>イ 解説・説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者増加を図る。</p> <p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する。</p> <p>イ 増加する海外からの来館者対応のため、トイレ洋式化などの計画策定を進める。</p> <p>ウ 来館者状況を注視しつつ施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の見直しを進める。</p>		
--	---	--	--